

学校内にバレエ教室

大和市南林間の私立聖セシリア女子中学・高校が、名門バレエ団のトップダンサーの指導による課外活動を行っている。校内に設けたバレエスタジオで割安でレッスンを受けることができ、情操教育やコミュニケーション能力の向上、礼儀を身につけるのにも役立つと好評だ。

(松崎美保)



校内のスタジオでレッスンを受ける生徒たち
(大和市の聖セシリア女子中学・高校で)

1月上旬、視聴覚室を改装した約140平方メートルのスタジオ。レオタード姿の中高生10人が、木製のバーを使いクラシック音楽に合わせて踊っていた。

「前、横、後ろ、プリエ。丁寧」。指導しているの

聖セシリア
女子中・高

トップダンサー指導 課外活動で



は「井上バレエ団」(東京都世田谷区)のプリンシパル(最高位ダンサー)で、「白鳥の湖」や「ジゼル」などで主役を務めた藤井直子さんだ。「お正月休みにお餅を食べたぶん、しっかり動くのよ」。90分のレッスンでは、厳しさの中にもユーモアが交じる。

バレエ教室は、2007年4月のスタジオ開設と同時にスタート。同校の生徒なら誰でも参加できる。平日は毎日放課後にレッスンがあり、レベル別にクラス分けされている。月謝は週4回受講しても1万4700円と、一般のバレエ教室に比べても割安だ。

同校では、幼少期に習っていたバレエを通学時間や部活動との兼ね合いで断念した生徒も少なくなかったというが、この教室なら、定期試験前はレッスンが休みになり、学校行事と重なる心配もない。

現在は、中高生約50人のほか、系列の幼稚園児、小

学生も通う。初心者からプロダンサーや宝塚を目指す生徒まで様々だ。

バレリーナ志望の中学3年小野結花さん(15)は「井上バレエのプリンシパルに学校で習えるなんて特別な経験」と喜び、中学受験でバレエを中断した高校2年細田凜さん(17)も「学校で習えるからバレエを再開できた」。藤井さんは「礼儀や集中力が身につく、バレエの上達と同時に成績が伸びる子もいる」と話す。

少子化を受け、私立校では情操教育など進学実績以外で他校との差別化を図る取り組みが広がっている。そんな中でも、校内でバレエを習えるというのは珍しく、大手進学塾「日能研」の受験情報誌「進学リーダー」の井上修編集長は「受験生にとって魅力的なはず」と指摘する。

担当の大橋貴之教諭は「バレエに打ち込み、普段の動作が美しくなった生徒もいる。豊かな感性や自己表現力が育ってくれば」と期待している。